

製品名: TRAF1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19181**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	46kDa

抗原情報

遺伝子名	TRAF1
別名	TNF receptor-associated factor 1 (Epstein-Barr virus-induced protein 6)
遺伝子 ID	7185.0
SwissProt ID	Q13077
免疫原	TRAF1 由来の合成ペプチド (アミノ酸範囲: 191-240)

背景

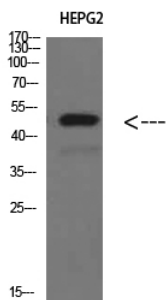
TNF 受容体関連因子 1 (TRAF1) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、TNF 受容体 (TNFR) 関連因子 (TRAF) タンパク質ファミリーのメンバーです。TRAF タンパク質は、TNFR スーパーファミリーのさまざまな受容体と関連し、シグナル伝達

を媒介します。このタンパク質と TRAF2 はヘテロ二量体複合体を形成し、これは TNF- α を介した MAPK8/JNK および NF- κ B の活性化に必要です。このタンパク質と TRAF2 によって形成されるタンパク質複合体は、アポトーシス抑制タンパク質 (IAP) とも相互作用し、それによって TNF 受容体からの抗アポトーシスシグナルを媒介します。このタンパク質の発現は、エプスタイン・バーウイルス (EBV) によって誘導される可能性があります。EBV 感染膜タンパク質 1 (LMP1) は、このタンパク質および他の TRAF タンパク質と相互作用することがわかっており、この相互作用は、LMP1 を介した B リンパ球の形質転換と TNFR ファミリー受容体からのシグナル伝達を結び付けていると考えられています。2つの異なるアイソフォームをコードする3つの転写バリエーションには、ドメインがあります。コイルドコイルドメインは、ホモおよびヘテロオリゴマー形成を媒介します。ドメイン:MATH/TRAFドメインは受容体細胞質ドメインに結合します。機能:アダプタータンパク質およびシグナル伝達物質であり、受容体細胞質ドメインおよびキナーゼとの関連により、腫瘍壊死因子受容体ファミリーのメンバーをさまざまなシグナル伝達経路に結び付けます。NF- κ B および JNK の活性化を媒介し、アポトーシスに関与します。TRAF1/TRAF2 複合体は、アポトーシス抑制因子 BIRC2 および BIRC3 を TNFRSF1B/TNFR2 にリクルートします。類似性:1つの MATHドメインを含みます。サブユニット:ホモ三量体(おそらく)。TRAF2 とヘテロ三量体であり、TRAF2 を介して TNFRSF1B/TNFR2 と結合します。TNFRSF4、TNFRSF5/CD40、TNFRSF8/CD30、TNFRSF9/CD137、TNFRSF11A/RANK、TNFRSF18/AITR、TNFRSF17/BCMA、TNFRSF19/TROY、TNFRSF19L/RELT、XEDAR、EDAR、エプスタイン・バーウイルス BNFL1/LMP-1、TANK/ITRAF、TRAIP、RIPK2 と相互作用する。BIRC2 および BIRC3 の N 末端と相互作用する。NFATC2IP および HIVEP3 と相互作用する。

研究分野

がんの経路;小細胞肺がん;

画像データ



TRAF1 ポリクローナル抗体 (1:500 希釈) を用いた HEPG2 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。